



地域イベントで協力団体と自衛隊をPR

自衛隊東京地方協力本部八王子地域事務所（所長坂本一陸尉）は11月16日・17日の2日間、協力団体（八王子市防衛協会・家族会・隊友会・募集相談員）の協力を受け、「第40回八王子市いちよう祭り」に参加して広報活動を実施した。

これは、甲州街道のいちよう並木にあやかり市民手作りのイベントとして始められたもので、現在では八王子市3大祭りの一つとして知られており、2日間で合わせて約50万人が来場した。

祭り会場中心部に位置する「陵南公園」に開設した広報ブースでは、災害派遣、国際貢献活動等の動画放映や写真を掲示し、広報官が自衛隊の活動内容について説明した。また、軽装甲機動車や高機動車のコーナーは多くの来場者の注目を集め、高機動車の後部席に乗り込んだ男性からは「思ったより広いですね」との感想が聞かれた。迷彩服の試着やトウチ君との記念撮影では、家族会から支援を受け、その場で撮影した写真をプレゼントする等、多くの若者や子供たちの楽しむ姿が見られた。

協力団体と共に自衛官募集チラシを配布した際には、先般の台風や豪雨による自衛隊の災害派遣に対し、「自衛隊に感謝です」「これから頼りにしています」等、自衛隊の活動に対する感謝や励ましの言葉が聞かれた。

八王子地域事務所は今後も自衛隊への関心や理解が深められるよう、地域に密着した募集広報活動を実施していくとしている。



マラソン大会で自衛隊をPR

自衛隊東京地方協力本部江東出張所（所長 飯野3海佐）は11月24日、江東区夢の島競技場を発着点として開催された「第39回江東シーサイドマラソン大会」において広報活動を実施した。この大会は、江東区のほか江東区教育委員会等が主催し、江東区の南部地域にコース設定された10kmの部とハーフマラソンの部で行われ、定員4000名を越える応募がある人気の大会であり、今回初めて会場に開設した広報ブースでは「国家を守る公務員」等の募集ポスターを掲示し、選手等に自衛官採用説明会資料やポケットティッシュを配布した。

また、大会の開催地区内に所在する江東出張所等から6名の広報官等がハーフマラソンの部に出場した。「自衛官募集〜未来のために〜」とプリントしたお揃いのTシャツを着用して出走した広報官らは、臨海部を走るコースの景観と潮風を楽しみつつも懸命に力走して自衛隊をPRし、その姿には沿道の応援者や他のランナーから「自衛隊、がんばって!」と多くの声援が向けられていた。

江東出張所では今後も地域に密着した採用広報活動を通じて、防衛基盤の拡大と自衛官募集に努力を継続していくとしている。



東京地本長が東京大学で講義

自衛隊東京地方協力本部長（岸良陸将補）は11月27日、東京大学において工学部3年生等約130名に対し、「産業総論」の講義を実施した。本講義は平成16年以降、東京大学工学系研究科機械工学専攻中尾政之教授の依頼に基づき実施しているものである。

当日は、「軍事と科学技術」と題し、「軍事と科学技術の関係」、「軍事に影響を与えた技術の発達」、「軍事技術と民生技術との関係」、「戦闘様相の変遷及びハイブリッド戦」等について、特にスピンオフ及びスピノンの実例やウクライナ東部紛争等について具体的に解説するとともに、防衛装備庁が進めている研究実例紹介等を映像を交えて講義した他、「自衛隊の任務」、「技術系幹部のキャリアパス」や現在、多方面で活躍している東京大学出身の幹部自衛官を併せて紹介し、学生は皆、興味深く講義を受講していた。

受講した学生からは「自衛隊における意思決定のプロセスや今後の方向性について教えてくださーい」や「我が国が技術的優位を保つため、共同開発はどの様に進んでいるのか」等が質問され、昨年12月に策定された防衛大綱・中期防衛力整備計画を踏まえ、国防を担う防衛省・自衛隊の活動に対する関心の高さがうかがわれた。

東京地本は引き続き、大学での講義等の機会を通じ、防衛に関する理解の拡大に努めていくとしている。

